

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072200276		
法人名	社会福祉法人 上秋津福祉会		
事業所名	グループホーム あきつ		
所在地	和歌山県田辺市上秋津2310-178		
自己評価作成日	平成29年7月26日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;dirvosyoCd=3072200276-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;dirvosyoCd=3072200276-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活をゆつくり一緒に楽しく、笑顔で過ごす事をスタッフの心得とし、利用者、家族様にとつて居心地の良い環境作り、安心して生活が送れるよう支援してします。  
又、将来スタッフが過ごしたいと思えるグループホームを目指しています。  
同敷地内の介護老人保健施設の入所者様と毎週カラオケを楽しんだり、月に1回認知症カフェに参加し、多くの方と交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家庭的な環境の中で利用者が調理や花の水やり、ホウキを持って掃除する等のできる事に携わってもらったり、編み物や写経を楽しんでいる方もおり、以前と同じような暮らしができるよう個々の力を活かした支援をしています。また地域の中での生活を意識し日々の買い物は地域の魚屋やスーパーを利用したり、幼稚園児との定期的な交流をはじめ、中学生や高校生の体験学習を受入れ子ども達と交流しています。更にアコーディオンのボランティアの来訪時に町会の役員や民生委員も一緒に楽しみ交流が広がっています。希望にそってドライブや季節の良い時には散歩、四季を感じられる外出を支援し、日々の関わりの中で利用者から外食や外出先の希望を聞き行事に反映したり、個別でも行きたい場所や会いたい方を聞き支援に繋げるなど、多くの外出を支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目にすることができる場所に掲げる事で、日頃から意識し共有できる職場環境を管理者と職員がつくり、理念に沿ったサービスの提供を心掛けている。	家庭的な環境や地域の中での生活、個性に寄り添った自立支援などを謳ったホーム独自の理念は、職員の入職時には込められた思いを伝え、日々の申し送りや会議の中でも理念にそった支援となるよう話し合っています。また玄関に掲示し職員や来訪者にもわかりやすく意識できるようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の購入は近くのスーパーに行き、地域住民と気軽に挨拶を交わしたり、月1回認知症カフェに参加し地域の方と交流を図っている。又、地域の中学生、幼稚園児の訪問があったり、交流が持てるように働きかけている。	自治会に入会し地域の集会に参加したり、アコーディオンのボランティアの来訪時には町会の役員や民生委員も一緒に楽しみ交流が広がっています。また、幼稚園児との定期的な交流をはじめ、中学生や高校生の体験学習の受入れを行い、子ども達との交流もあります。月に1度社会福祉協議会が行う認知症カフェへ参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の体験学習の受け入れを行っている。又、見学、電話での問い合わせ等に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回地域の方やご家族、行政の方、入居者様に参加して頂き、活動報告等を行い、意見、助言、要望などを頂きサービス向上に活かしている。	会議は利用者や家族、町会役員、民生委員、他事業所管理者、中学校長、地域包括支援センター職員、市職員等の多くの参加を得て、隔月に開催しています。ホームの活動状況をスライドで写真を見てもらい、事故や職員の異動、研修等を報告し、要望や助言を得ています。参加者の意見から複数の民生委員との関係が広がり、交流や協力関係に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂く事で、当事業所の取り組み、運営を理解してもらえるようにしている。又、困った事があれば訪問、電話等で相談するようにしている。	運営推進会議に市職員の出席があり、ホームの運営状況を知ってもらっており、わからないこと等があれば窓口に行ったり電話で聞いています。ケアマネジャーの連絡会に参加し情報交換をしたり、研修案内があればできる限り参加しながら協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修に参加し、身体拘束に関する知識を深め、職員同士の話し合いの場で定期的に拘束はしていないか確認しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を年に1回行い職員に周知し、月に1度併設施設と合同で委員会を行い、声のかけ方についても話し合い拘束のない支援に取り組んでいます。利用者の行動を止めるような言葉かけの無いように配慮し、出かけて行くのを見守ったり一緒に散歩に出かけることもあります。一時的にセンサーを使用したこともありますが、穏やかに過ごせる環境作りをすることで不要になるよう取り組んでいます。	

グループホームあきつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加し、虐待に関する知識を深め、職員同士の話し合いの場を設け、虐待を見過ごさないよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者様はおられないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族と十分話し合い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を抽出しやすくする為、面会時には必ず声を掛け、そこで得られた意見などをホームの会議や法人の全体会で話し合いサービスに反映させていけるよう努めている。	日々の関わりの中で利用者から外食や外出先の希望を聞き、行事に反映しています。家族へは毎月利用者の様子を便りで伝えたり、面会時や電話をかけた時にコミュニケーションを図り、意見や要望を聞いています。また、敬老会などの行事に家族を招いたり、利用者の誕生日にも一緒に祝う等、ホームで一緒に楽しみながら意見を言える機会を作っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時には必ず職員の意見を聞き、又、職員個々に意見を聞く機会を作ったり、定期的にカンファレンスを行い全職員の意見、提案を聞き運営に反映させている。	毎月行うカンファレンスや毎日の申し送り、日々の業務の中でも常に思っていると言える雰囲気があり、意見や提案が出されています。個々の利用者のケアについての提案をはじめ、物品の購入や記録の時間について、業務改善についての意見が出され、話し合いサービスの向上に活かしています。また職員の様子を見て随時面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り勤務の希望を聞き、働きやすい環境を作るようしている又、研修会等への参加により向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度法人の研修に参加し、自業所外で開催される研修にも、多くの職員が受講できるようにしており、研修で学んだ内容を報告する機会を設け、技術や知識を身につける工夫をしている。		

グループホームあきつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業団体の研修に参加し、学習会や意見交換をサービスの質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人にお会いし、心身の状態や思い不安を理解し、安心して生活して頂けるように、ご家族と相談し徐々に馴染めるような関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されるご家族の立場に立って、ご家族が求めているものを理解し、どのような対応ができるか事前に話し合いができる機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い、状況などを理解し、困っている事や不安な事に対し、どのような支援を必要としているかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、礼儀を大切に、ゆったりと楽しく家族の一員として職員も過ごし、日々生活のなかで色々な事を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりをより深め、利用者の心身の状態や日頃の暮らしぶり等を詳しく伝え、意見や希望を出してもらいやすい雰囲気を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人を支えてくれたり、また逆に本人が支えてきた人間関係について把握し今までの生活の延長であるよう馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	友人や元同僚などの来訪があった時には居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮し、会話がスムーズにできるよう職員と一緒に会話に入ることもあります。行きたい場所や会いたい方を聞き個別支援に繋げたり、家族と自宅や墓参り等に行く方もおり、馴染みの関係継続の支援をしています。また携帯電話を持ち会話をしたり年賀状や手紙を出せるように支援しています。	

グループホームあきつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を聞いたり、相談にのったり皆で楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面作りを行っている。また、利用者の心身の状態や気分、感情の変化に注意し深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても利用者や御家族からの相談に対応し、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には思いや暮らしの希望を聞いているが、思いや希望が変わってくる為、日々のかかわりの中で言葉や表情からどのように暮らしたいか、何をしたいか拾い会議等で話し合い、希望や意向の把握に努めている。	生活歴や好み、どのような暮らしをしたいか等の情報は、入居前に本人や家族と面談を行って聞いたり、家族には書面に書いてもらい意向や思いの把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で利用者の言動や表情から得られた情報をカンファレンスで本人本位に話し合い、思いを把握できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながらご本人やご家族から生活歴に関する情報を具体的に伝えてもらえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、その人が発揮できる力、分かる力を暮らしの中で発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で意識的に本人が求めている事を引き出し、又、本人や家族の思いを基に担当者会議を開催し、介護計画に反映させています。	本人や家族の思いを反映したアセスメントを基にサービス担当者会議を開き介護計画を作成し、入居後1か月目に見直し以降は3か月毎にモニタリングを行い見直しています。見直しに当たっては、家族の意向を確認し医師や会議に出席できない職員に意見を聞き、再アセスメントを行いサービス担当者会議を開いています。利用者の状況の変化があれば随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々の暮らしの様子やの言葉、食事量や排泄など身体的状況など記録し、個別記録をもとに介護計画の見直し評価を実施している。		

グループホームあきつの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合や状況に応じて通院介助を行い、又、お墓にお参りしたい、近所の方に会いたいと希望があればその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生の体験学習の受け入れを行っている。又、地域の文化祭に作品を出品させてもらい参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人、又、職員の意見をよく聞き適切な助言をしてくれ、ホームとの信頼関係を築きながら相談に応じてもらえる医師の確保が出来ている。	以前からのかかりつけ医を継続することも可能であることを説明していますが、現在は全員がホームの協力医の月に1回の往診を受けています。協力医には些細なことでも相談できる関係ができており、利用者の体調不良等には受診したり随時の往診を受けています。整形外科や心療内科などの専門医への受診は家族の対応が基本となっていますが、詳細を伝えるために管理者が一緒に行くこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師に、利用者の状態など相談を行い、主治医へ報告し、適切な指示や受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族には入院した際、安心して治療ができるように説明し、早期退院ができるように医療関係者と話し合い、協力体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には急変時や緊急時の対応の説明及び意向確認をし、本人にとってどうすることが一番良いのか早期から本人、家族と話す機会を作りホームで出来る事を十分に説明し、終末期には家族、医師と話しながら方針を共有している。	入居時にホームの医療体制について説明し、支援できる事やできない事について理解を得ています。重度化し体調の変化があれば、往診時に合わせて家族に来てもらい状況を説明してもらい、家族の意向を確認しホームでの対応を含め方針を共有しています。病院に入院する方もいますが、家族の協力を得て話し合いを繰り返しながらホームでの看取り支援の経験もあり、支援後は振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置方法マニュアルを作成し、又、研修を行い急変時や事故発生時の対応に備えている。		

グループホームあきつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回実施し、隣接施設、地域の方の協力を得られるように働きかけている。	年に2回いずれも消防署の立ち会ひの下昼夜を想定し消防訓練を行い、通報や初期消火、避難誘導の訓練を行っています。運営推進会議で協力依頼を行い、実際には隣接する施設からの協力が得られるように体制を整えています。地域の一時避難所になっており、地域の訓練には一旦地域の方が来てから中学校への避難の訓練を行ったこともあります。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライドを傷つけないよう、さりげない言葉かけや対応を行い、プライバシーの確保の徹底を行っている。	接遇マナー研修を行い、職員には利用者は人生の先輩として尊重した言葉かけをするように伝えられています。口調が強くなったり馴れ馴れしくならないように配慮し、不適切な対応があればその都度個々に注意しています。利用者が分かる呼び方や希望で名前や以前呼ばれていたように呼ぶこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり、あわてさせる事のないよう本人の動きや言葉を待ち、得意な事、出来ることを見つけ、それを活かしていける場面を作り、常に利用者の方に決めてもらえるような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、本人のペースに添って見守りながら一緒に過ごす時間をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など利用者の好みで選んでもらっている、又、希望があれば美容師さんに来てもらい希望のヘアスタイルにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で献立を相談し、買い物に出掛け季節の旬の食材を選び、一人ひとりの力を活かし一緒に楽しみながら食事作りを行ったり、食事をしている。又、年に2回外食に出掛けている。	献立はその日に作る職員が利用者の希望を聞き乍ら決め、日々利用者と近隣のスーパーに買い物に行き、地域の魚屋から魚が届いています。調理には多くの利用者が携わり、台所に立ってもらったり、食卓でも食材を切るなどのできることを行い食事を作り、職員も一緒に食べています。利用者の姿勢が重要と考え車いすから椅子に移動し足置きなどを使用しています。プランターで育てた野菜が食卓に上がり、干し柿や梅ジュース作りも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材もできるだけ多くの物を取り入れ、バランスを考え、定期的に法人内の管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスしてもらっている。		

グループホームあきつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあった歯ブラシを使い、毎食後声掛け、セッティングで口腔ケアを行って頂き、自己にてできない方には職員が介助にて行っている又、職員が口腔内の状態を見て、必要に応じて歯科衛生士さんに相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の自立を支援しています。又、日中は布パンツで過ごして頂いています。	必要があれば排泄チェック表を使用し、パターンを把握して個々のタイミングでトイレに行けるように支援し、入居時紙パンツを使用していた方も徐々に布の下着に変更しています。職員間で情報交換をしたり提案を出し合い、排泄用品や支援方法を検討しています。夜間ポータブルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに緩下剤の調整を行い排便を促すような食材を多く取り入れたり、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番、好みの湯温、浴室内での利用者の状態を把握し、希望にあわせた入浴支援を行っている。又、1対1の入浴で職員とコミュニケーションを図りながら、楽しく、安全な入浴に努めている。	冬は隔日、夏は毎日入浴かシャワー浴ができるように準備しています。希望を聞きながら入浴を支援し、入浴は自身で回数を決めています。午後4時から7時30分を基本に希望があれば夜間や午前中の中の入浴にも対応でき、ゆっくり会話を楽しんだりゆず湯や菖蒲湯などの季節湯を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個別の状態や疲労に応じて休息を取る様に声かけを行っている。夜間も眠れない方に対しては、その原因を把握し、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、確実に服薬してもらうように介助している、又、処方されている薬の内容を個人カルテに綴り、内容や副作用について把握し、臨時薬を服用した時はバイタルチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割を行ってもらうよう、個別に働きかけている。畑仕事や犬の世話などを通して役割や気晴らしになっている。		



グループホームあきつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買い物、散歩等日常的に外出できるように支援している。又、行きたい場所など出来る限り希望に沿えるように、家族様にも協力して頂いている。	日常的に花の水やりや買い物に行ったりホーム前のベンチで外気浴する等外に出る機会が多く、また希望にそってドライブや季節の良い時には散歩に出かけています。初詣や桜やコスモス等の花見、紅葉狩りなどの外出行事を行い、時には家族に声を掛けたり弁当を持って出かけています。少人数で文化祭や地域の行事に行き楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は自己管理をされており、買い物時には利用者が直接支払いを行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人から手紙が届いたり、書いた手紙は職員と近くのポストに投函しに行き、電話を掛けたいという希望があれば、事務所の電話を利用してもらい、話をされる時は席を外す等の配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が馴染みの場所、安心感のある場所、季節に応じた飾りを飾ったり、季節感を感じて頂けるようにしている。	天井が高く広い共用空間は、タペストリーや利用者と一緒に作成した切り絵や季節の飾りつけを行ったり生花を飾り、季節を感じられるように配慮しています。テレビを囲んでソファを置き寛いだり、食卓で作業や台所で調理を行う方もおり、それぞれの利用者が思い思いに過ごしています。毎日掃除を行い清潔を保ち、温湿度計を見たり利用者の体感も聞きながら温湿度管理を行い、快適な空間作りに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の状態の変化、利用者同士の関係性などに配慮し、ゆっくり過ごせ、居心地の良い空間作りを努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場所となれるように、入居時に自宅で使っていた馴染みの物や写真などの持込をご家族にお願いし、協力して頂いている。	入居時に使い慣れたものを持って来てもらうよう伝え、タンスやソファ、棚、テレビ、冷蔵庫などの持参したものを家族と相談して配置しています。家族の写真やちぎり絵、生花を飾ったり、以前に自身で作成した紙芝居を置きその人らしい居室となっています。利用者もホウキを持ち掃き掃除をしたり、居室で編み物や写経を行う方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を変化などに考慮し、利用者の現在の状況に応じて生活環境を整えるように、努めている。		